

## 2022年8月期 決算説明会 質疑応答 (2022年10月14日開催)

Q

### 株価に関する質問

- 株価下落に対しての社長の見解はどうか。  
低調な株価推移に対しては、自己責任の世界なのでどうしようもないが、あまりにも野放しな気がします。さて宇宙ステーションにも使用されてるような表現もあったが、アルテミス計画などでも使用される予定なのか？
- IPO上場後の高値から今や株価は5分の1の水準でひたすら下げ続けています。高値で膨大な含み損に耐え続けている個人投資家に向けて、今後の意気込み、株価対策を聞かせて下さい。

A

株価につきましては、高いほうが良いとは思っておりますが、当社としては第一に事業を成長させていくことによって企業価値をあげることに力を入れたく考えております。

このため、小手先の部分での対策ではなく、新しい試みにチャレンジし企業価値を高めてまいる所存ですので、何卒、長い目で見守っていただきますよう、お願い申し上げます。

Q

### プレスリリースに関する御意見

- 日頃の業務状況がなかなか見えてきません。プレスリリースなどで、もう少し新規開発状況や受注状況など、世の中の役に立っていることをきちんと伝えてほしいと思います。  
佐川さんのポータブルデータターミナルの事例がwebで散見されますが、公式に開示してはいけないのですか。売上や損益だけでなく、世の役に立つことも企業価値だと考えます。  
さらに、月次がわかりづらいです。名刺の枚数とか商談件数ではなく、もう少しわかりやすいKPIに置き換えていただきたい。

A

プレスリリースにつきましては、お客様との関係(名称や導入事例としての使用許諾等)や知的財産権取得のために開示できない事項があります。当社としてはすべてを開示したいと考えておりますが、お客様との関係性を重視させてもらう結果として、開示不足を感じさせてしまっている状況、お詫び申し上げます。

「世の役に立つことも企業価値」との御意見、ありがとうございます。その観点からのプレスリリースも検討を進めさせていただきます。

また、月次がわかりづらいとの御意見、ありがとうございます。他社様のKPIの状況なども参考にしながら、今後も当社の状況をお知らせすることに有用な指標を模索していきたく思います。

Q

### 伊藤忠紙パルプ株式会社様の株式売却に関する質問

- ・2019年5月に資本業務提携した伊藤忠紙パルプが一部株式を売却しましたが、売却理由を聞いていますか。
- ・伊藤忠紙パルプは何故持株を処分してるのでしょうか？

A

業務資本提携を結んでいる伊藤忠紙パルプ株式会社様の株式売却についてですが、具体的な目的については当社からは発言は控えさせていただきます。売却によって当社との資本業務提携を解除するものではなく、残存株数は保有維持方針と聞いております。

なお、保有株式の売却数ですが、決算説明会資料1. (5)株式関係【大株主の状況】に記載のとおり、当社の2022年8月期に233,700株を売却しておられます。

当該減少はしましたが、伊藤忠紙パルプ株式会社様と当社の資本業務提携の内容や関係性に変更はございません。

Q

- ・直近の四半期決算(2022.8月期 3Q)で営業赤字となった理由は何ですか。

A

当社グループの売上高はお客様への製品(ハードウェア又はシステム)の出荷時又は検収時点に計上されます。製品の出荷等、またはシステム等の検収時期などにより、月次単位で業績が大きく変動すること、ご理解ください。

ご質問いただきました2022年8月期第3四半期の営業赤字となった理由ですが、当該会計期間において半導体不足などの関係があり、製品の出荷等が少なかったことがその主な理由となります。

2023年8月期におきましても、同様の理由で営業赤字の四半期が発生することがあるかと思いますので、ご理解いただきますよう、お願い申し上げます。

Q

- ・決算説明の動画は、一般の投資家にも参考となるので、後日会社HP上で見ることができるよう改善をお願いします。

A

改善の御提案、ありがとうございます。御時間をいただきますが、今回より、会社HP上で決算説明会の動画を視聴いただけるように改善させていただきます。

Q

### 業績予想に関する質問

- ・今年春からの株価が半値以下に低迷していますが、投資家保護の観点からも来季の業績予想が低く開示された事について説明してください。保守的で上振れの可能性もあると考えてよろしいのでしょうか。

A

保守的な計画とのご指摘ですが、意識的に保守的な計画を設定しているわけではございません。事業環境に不透明なところがある中、リスク要因を織り込んだ上でしっかり達成できる数値を出しています。これは事業環境の変化、例えば円安が進行すればさらに悪化する可能性もありますし、逆に円高が進行すれば上振れもありえます。

また、説明会資料の中でもあったアーキテック社、キャンディハウスジャパン社との新しい試みの成否など、現時点ではそうしたリスクをさまざまな意味で織り込んだうえで集計した結果を、業績予想として開示する方針としております。

Q

### 業績予想に関する質問

- ・今期計画。4Qの計画がかなり強く、新商品導入を予定とのことですが、こういった市場にどのような商品を予定しているのか教えてください。

A

資本業務提携を締結したアーキテック社の開発するAIチップは、世界的にも特殊なチップと認識しております。当社は現在、アーキテック社のAIチップを活かした製品の開発をしております。実際の製品の内容については、ある程度の社会実装の実現が見えた段階で発表させていただきます。

同様に資本業務提携を締結したCANDY HOUSE JAPAN社との協業製品は顔認証を用いたスマートハウス・セキュリティ関連製品のリリースを現在進めております。こちらは2023年早々の販売開始に向けて動いております。

このような新製品の販売計画が新事業となり、当社の第4四半期には既存製品にこれらの新製品の売上高が計上されることを想定しております。

顔認証を用いたソリューションについては、現在、当社が建設を進めているAsTech Osakaビルディング(研究施設)での実装に向けて開発を進めております。当研究施設では、実際の鍵を持たずに顔認証で施設内に入退室ができ、また「いま・誰が・どこにいるのか」も管理できるシステムを構築しております。